

八尾歴史物語

六十七巻

文化財と観光③ 信貴山への参詣 その一

江戸時代における杜寺への参詣では、遠方になりながら多くの人々がめざした著名な杜寺だけでなく、八尾市の東に接する生駒山系の信貴山にある朝護孫子寺にも厚い信仰が寄せられ、多くの参拝がありました。

朝護孫子寺は、聖徳太子が物部氏との争いの際に戦勝祈願を行い、毘沙門天が現れたとして古くから商売繁盛の神として信仰を集め、全国から参詣者が訪れました。特に商売の盛んな大坂からの参詣者が多く、市域を通る参詣道が整備されました。市内には、立石街道、おと越え、信貴山道、恩智街道、八尾街道などがあり、江戸時代から近代にかけての信貴山への行先を刻んだ道標が今も残されています。

生駒山地西麓を南北に通る東高野街道から朝護孫子寺へ至る信貴山道（高安信貴道）には、教興寺の前の四つ辻を起点として一丁（約109m）ごとに丁石が立てられており、当時は四十二丁石までありました。現存

している丁石は12基あり、確認できる最古の丁石は宝永5年（1708年）のもので、寛政13年（1801年）までの丁石が残っています。寛政期のもものが多く、この時期に参詣が盛んであったことがうかがえます。刻まれた文字を見ると、大坂の商人たちが願主でした。

四丁石の北に位置する意満寺には、もとは十丁灯籠付近の祠堂にあつたと伝えられる毘沙門天立像があります。この像は、朝護孫子寺の本尊の毘沙門天像と同じ形式です。その作風から平安時代後期の制作と考えられ、平成30年（2018年）に市指定文化財に指定されました。

（つづく）



▲ 八尾街道と立石街道の分岐点にある信貴山道への道標

問 観光・文化財課

TEL 924・8555
FAX 924・3995